

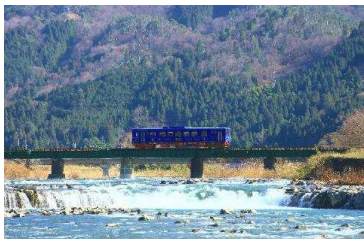
## (2) 景観資源の保全・活用

2(4)3) のとおり選定した景観資源については、次のとおり保全・活用を検討していく。

### ① 若桜鉄道 各駅舎・施設 (若桜町若桜～八頭町郡家)

#### 【概要】

・昭和5年に国鉄若桜線として運営が始まり、昭和62年、沿線の若桜町・八頭町等が出資する第3セクター若桜鉄道(株)がJRから引き継ぎ、今日に至る。若桜駅～郡家駅の延長19.2kmの路線。



・平成20年に全国ではじめて沿線全体の施設(若桜・丹比・八東・安部・隼・因幡船岡の駅舎と橋梁や転車台等)が国の有形文化財に登録され、貴重な地域の歴史的遺産として注目されている。



・観光列車「昭和号」「八頭号」「若桜号」が走り、木造のレトロな駅舎や沿線の徳丸ドンドと鉄橋などの懐かしい風景を走り抜け、笑顔と笑いが生まれる新しく懐かしい鉄道の旅を演出する。

#### 【若桜駅】若桜町若桜

若桜鉄道終着駅。構内には駅本屋をはじめプラットホーム、手動式転車台や給水塔など昭和5年開通当時の設備が良好な状態で残されている。令和元年度に著名な工業デザイナー水戸岡鋭治氏のデザインによる駅舎改修を行い、駅舎内にカフェを設置した。



#### 【隼駅】八頭町見槻中

・駅名にちなみスズキの大型バイク「隼」の愛好家等(隼ライダー)の「聖地」となっている。毎年、8月第1日曜日に「隼駅まつり」が開催され、全国各地から2,000台余りのバイクが集結する。



・3月中旬から12月上旬にかけて、駅内ショップ「把委駆」(ばいく)が土日祝日に開店する。

#### 【安部駅】八頭町日下部

・真っ直ぐに伸びる線路の景観が素晴らしく「男はつらいよ」のロケ地になった駅。近隣集落の住民に配慮して入口は2か所に設けられている。



・昔ながらの木製切符売り場や改札は当時のまま現存している。

**【現状・課題】**

平成30年3月の観光列車「昭和号」の運行を契機に、駅舎・施設を含めたトータルデザインとして、同年から令和2年度にかけて各駅舎のレトロ化を進め、歴史のある駅舎などの関連施設は地域資源や観光資源としての価値を高め、町外から人を呼び込むツールとして重要性が増してきている。今後は、3台の観光列車や八東駅行き違い施設整備を活用した列車増便による利便性を活用し、乗って楽しんでいただくだけでなく、降りても楽しめる仕掛けづくりが課題となっている。

**【保全・活用、整備の方向性】**

- ・列車や駅舎、登録有形文化財施設等の撮影スポットの整備、情報発信、滞留拠点化を検討する。また、撮影スポットに移動式カメラ台を配置するなど利用者視点による工夫を検討する。
- ・若桜鉄道全体を博物館に見立て、各駅舎に国鉄当時の遺構（秤、待合）などの説明板の設置や往時の写真を展示することを検討する。
- ・レトロな駅舎の風景を阻害しないデザインのベンチ等の設置により休憩できる場所を設け、滞在時間の増加につなげる。

**(若桜鉄道のビューポイント)**

① 第1八東川橋梁



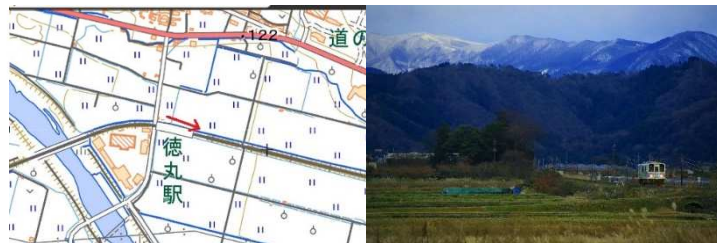
② 第2八東川橋梁



③ 第3八東川橋梁



④ 徳丸駅



⑤ 若桜駅



② 若桜宿（仮屋通り・蔵通り）（若桜町若桜）

【概要】

中世、若桜鬼ヶ城の城下町として整備され、江戸時代以降は鳥取と姫路を結ぶ若桜街道と伊勢街道の宿場町・商業都市として発展した。「仮屋通り」「蔵通り」などの特色ある近代以前の建築が現存している。



【現状・課題】

- ・宿内には伝統的な建造物が良好な状態で残されている。しかし、少子高齢化や過疎化に伴い空き家や空き地が増加しており、若桜らしい町並みが失われつつある。
- ・文化財保護法に基づく重要伝統的建造物群保存地区の国選定に取り組むことが、住環境の整備と安心・安全で賑わいのあるまちづくりにつながると考え、事業の周知と地区の選定に向けた活動に取り組んできた。

【保全・活用、整備の方向性】

- ・地区内への啓発と地区外への情報発信を進め、一定の基準を満たす修理・修景等への支援により、町並み保存と賑わい創出を図る。
- ・電柱や電線が、伝統的建造物群保存地区内の歴史的な町並み景観の支障となっており、また、交通安全や防災の観点からも、区域内の無電柱化を検討していく。
- ・空き家となっている歴史的な古民家を宿泊施設として保存・活用し、アフターコロナを見据えた滞在型の観光プランを検討する。
- ・蔵の見学や寺巡り等、気軽にまち歩きが楽しめる工夫やモデルコースの設定を検討する。
- ・観光客が気軽に休憩できるベンチを設置し、おもてなしの雰囲気醸成を図る。

③ 安井宿（八頭町安井宿）

【概要】

- ・若桜街道の宿駅に指定された宿場町。
- ・安井宿内にはかつての若桜往来沿いに赤瓦の家並みが続き、宿の中ほどにはかつての郵便局だった近代建築が残る。さらに進むと愛宕神社の石段下には「右いせ道/左やま道」と印された石道標があり、宿場町の風情が残る町並みである。



【現状・課題】

- ・昔ながらの古民家が残っている一方で、一般的なデザインの家屋も建築されている。
- ・少子高齢化や、過疎化に伴い、空き家や空き地が増加しているうえ、保全が行き届かないため、景観に悪影響を及ぼしている。



【保全・活用、整備の方向性】

- ・古民家を改修・活用した地域振興を検討する。
- ・新築建築物のデザインを地域の特徴に馴染むようなものに誘導する。
- ・地元住民とのワークショップ等により啓発活動を行い、価値を再発見するとともに、宿場風情を残す現存建物の保存と地域ぐるみの取組みの推進を図る。

#### ④ 花御所柿の柿畑（八頭町大御門地区）

##### 【概要】

花御所柿の一大生産地である「大御門地区」を縦断する国道29号沿いには、昔から脈々と栽培が受け継がれている花御所柿畑が広がり、晩秋には柿畑が一面にオレンジ色に染まった景色を見ることができる。



##### 【現状・課題】

- ・柿畑にある青色のあるいは老朽化した防風ネットが景観を損なっている。
- ・鳥取いなば農協の直売所「物産館みかど」前や道の駅はっとう前などに広がる柿畑の風景が、ガードレールや電柱等に阻害されている。
- ・後継者不足により、田畑や果樹園の耕作放棄地や放置果樹が多くなっている。
- ・沿線は平坦な地形で展望台もなく柿畑を一望することが出来ない。

##### 【保全・活用、整備の方向性】

- ・農協等の協力を得ながら、防風ネットの更新の際には、柿畑の風景を阻害しない黒色又は茶系色を使用するように誘導する。
- ・道の駅はっとうや物産館みかどから向かい側に広がる柿畑の間にある電線・電柱については、移設や無電柱化を検討していく。
- ・道路から観る柿畑の風景を阻害しているガードレールについては、透過性の高いガードパイプ又はガードケーブルの採用を検討していく。
- ・展望に最適な場所の選定と展望場所への誘導について検討を進める。
- ・後継者不足や高齢化が課題となっている柿農家の参加するワークショップ等により柿畑が創り出す景観の素晴らしさを再認識し、景観と生産の両面の維持向上を図る方策を検討していく。